

新報



来庁者へアンケート調査をする大学生たち

窓口の利便性向上を

大学生がニーズ把握調査

来年2月 システム提案へ

大牟田

大牟田市の行政窓口案内システムの利便性向上を図ろうと、東京都市大学の学生たちは、大牟田市役所で来庁者を対象にアンケート調査を実施。ニーズ把握に努めた。今後は調査を基に、市と包括連携協定を結んでいる沖電気と共同研究して来年2月ごろをめどに、窓口案内システムを提案する。

調査を行ったのは、東京民間有識者。また共同研究都市大学都市生活学部不動産マネジメント研究室の学生である越前茜さん(21)と北沢晟香さん(22)の2人。学生たちは「行政窓口の案内システムに関する研究」をテーマとして卒業研究を行っている。

同研究室教授の宇都正哲さんは、大牟田まち・ひと・しごと創生有識者会議の

アンケート調査は立体駐車場側入り口と職員会館付近入り口の2カ所で行った。

来庁者に性別、年齢、今回の来庁目的、過去1年間の来庁目的、現在開発を考えているシステムの感想などを聞いた。

2人は「当初、考えていた事と微妙な違いがあることが分かった。これは実地調査をしなければ気付かないこと。アンケートの結果をシステム構築に生かしたい」と話していた。

(小柳 聡)